

# 火伏せの虎舞

宮城県指定無形民俗文化財

約六五〇年の伝統を誇る火伏せの虎舞。  
哀調をおびた笛の音と、  
剛健な太鼓の囃子につれて  
踊り舞う雄壮な虎がまちを練り歩く。  
ときに高屋根によじのぼり、  
風をはらんで舞う  
初午祭は  
毎年四月二十九日開催される。

宮城県加美町

【加美町役場 ☎0229-63-3111】

中新田火伏せの虎舞保存会

## 火伏せの虎舞の由来

私たちの町に伝わる「火伏せの虎舞」の記録は、明治35年4月30日の大火によって焼失し、現在、保存されている文献もないので、正確な起源を知ることにはできませんが、古老たちの言い伝えによると、今から約650年前「文和3年・西暦1354年」この地を治めた大崎義隆公の始祖斯波家兼公は三河の国から奥州管領としてこの地方に赴任し、中新田に城を築きました。そのとき、城主は氏神として城内に八幡神社と稲荷明神を祀り、毎年初午の日に稲荷明神の祭礼を行いました。（この二つの氏神は、現在も町内の中新田城跡に祀られています。）

私たちの町は、西方に奥羽山脈が連なっていますが、西北部には高い山もなく、早春より初夏にかけて西北の強風が吹き荒れ、昔から大火になることもしばしばでした。当時の人びとは風禍を防ぎ、火難からのがれようと願ったことが推測されます。このため、城主は住民をこの災厄から守るため、易の文献にある「雲は龍に従い、風は虎に従う」の故事にならって、稲荷明神の初午祭に虎舞を奉納し、虎の威をかりて、風をしずめ火伏せを祈願したのがこの虎舞の始まりだといわれています。その後、城主はこの祭りを、城下の火難防止と繁栄策としてとり入れ、火消組が花バレンなどでかざられた山車を引き城下をねり歩き、各家々で虎舞を舞うという、現在の祭りの原形をつくりました。

大崎氏の没落後、伊達政宗公が藩主になり、当時の中新田城はなくなりましたが、この初午祭と火伏せの虎舞は

火消組の手によってうけつがれ、時代の流れによる盛衰をのりこえ、今日に及んでいます。

虎舞の囃子は、山車が町内をねり歩くときの「通り」から始まり、火伏せの虎の雄壮な舞が「本調子」ののってくりひろげられ、「岡崎」の調べによって舞が最高潮にたつします。陽がようやく西に傾きかけたころ、腹いっぱい風をはらんで高屋根によじのぼり、夕陽に映えながら一抹の哀調をおびた笛の音と、雄壮剛健な太鼓の囃子につれて踊り舞う虎舞の風趣は、とてもすばらしく、観衆を魅了するものであります。（昭和49年9月宮城県無形民俗文化財指定）

消防人の第一の使命は、現在においても予防消防であることに変わりはありません。私たちの祖先が650年前から、この火伏せの虎舞を通じて防火思想の普及につとめてきたことに、私たちは感謝するとともに、この偉大な行事を受けつぎ無火災の町づくりを推進しています。

